

第19回高校化学グランドコンテスト ポスター発表講評

笹森 貴裕 (筑波大学数理物質系化学域教授) :

聞き手に分かりやすいように、デザインやレイアウトを工夫したポスターが多かったように思います。

一方で、特に図表など、近づかないと読めない、見えない大きさの字で記載されているモノもあり、少し離れた所からでもよく読めるように工夫した方がよいと思われるものもありました。

元気に、熱意をもって発表している学生さんが多く、感銘をうけました。ちょっとしたアドバイスにも真剣に耳を傾ける真摯な姿勢を見習いたいほどでした。

松坂 裕之 (大阪公立大学理学部化学学科教授) :

時間的な制約のため、実際に発表を聴くことができたのは10数件でしたが、いずれにおいても研究内容を熱心に説明する姿が印象的でした。これまでに分かっていることと、今回新たに分かったこととを明確に提示することを意識していただければ幸いです。さらに、今回新たに得られた知見をふまえて、今後どのように研究を展開していくかを示唆してほしいと思います。

山田 鉄兵 (東京大学理学部化学学科教授) :

今年も数多くの素晴らしい発表を聞かせて頂きました。要旨から大幅に進展した研究もあり、最後まで粘り強く実験をしたのだと感じました。化学は目に見えないものを扱います。少ないデータから推測すると、落とし穴に入ることがあります。様々な方法で何度も確かめることで、分子の本当の姿に迫れると思います。来年も楽しみにしています。

幡野 明彦 (芝浦工業大学工学部教授) :

ポスター会場の熱気たるや、学術学会にも負けない雰囲気であると感じました。高校生の皆様が、自分自身で不思議に思った現象や物などをターゲットにして、興味を持ち取り組んでいることがよく分かりました。特に地域に根ざした鉱業、物品などを化学的な視点で捉える研究は興味深く、そのような地場産物質を最新のテクノロジーなどへ応用するなど、創意工夫、着眼点、発想力など、素晴らしいと思いました。今後好奇心を大切に、化学を好きに成って頂ければと思います。

木須 一彰（芝浦工業大学工学部准教授）：

どの研究もポスターが丁寧に作り込まれており、発表者の準備が素晴らしいと感じました。私が聞いた発表者は、緊張しながらも研究に対する熱意がしっかりと伝わるよう、一所懸命に説明してくれました。その姿勢に私も引き込まれ、各研究の独自性を感じることができました。また、私自身にも多くの学びがあり、とても勉強になりました。これからも研究を続け、次の世代の好奇心旺盛な後輩たちにバトンを渡していただきます。